

図1 わかりやすいパンフレット

電話のそばや冷蔵庫の扉など、よく見えるところに貼っておきましょう

インフルエンザの症状を感じたら、すぐに受診の相談を

症状は急変するかもしれません。高齢者、一人暮らしの人、病院が遠い人は早めに対処しましょう。

| | | | |
|-----------------------|--|-----|-----|
| 調べて書き込んでおく | かかりつけ医 ぜんそくをみてる病院 | TEL | FAX |
| | 地域の救急指定病院 夜間・休日診療施設など | TEL | FAX |
| | 新型インフルエンザ相談窓口 | TEL | FAX |
| あなたや家族が医療機関に必ず伝えるべきこと | <ul style="list-style-type: none"> ● インフルエンザの症状のある「ぜんそく患者」だということを伝える 「今の状態や苦しさ」 「いつから具合が悪くなったのか」 「どのような症状が、どのように変化しているか」具体的に | | |
| 用意しておくもの 持っていくもの | <ul style="list-style-type: none"> ● ぜんそくの症状の変化と使った薬の名前を記録する ● 保険証、おくすり手帳、ぜんそく日記・ぜんそくカードやインフルエンザ必携カード(P5) ● 受診の時はマスクをしましょう | | |

受診のタイミング～こんな症状を感じたら受診を～
※息苦しさなどぜんそくの症状はがまんせず、処方されている治療薬を早めに使いましょう

重症化の恐れ?

初めば「風邪かな?」と思うかもしれない

インフルエンザの症状

- せき
- 発熱
- 頭痛
- のどの痛み
- 鼻水・鼻がつまる
- 筋肉痛・関節痛
- 吐き気・嘔吐
- 呼吸が苦しい
- 下痢・腹痛
- めまい

電話して受診の相談

- インフルエンザ様症状が改善した後に熱やせきが再び悪化している
- 喘鳴や息切れが出現している
- 黄色いたんが増加している
- たんに血が混じっている
- 胸背部や腹部の痛みや圧迫感
- 頻回に繰り返す嘔吐・下痢
- 食事・水分がいつもの半分もとれない

電話して受診

- 安静時や移動の時に呼吸困難となる
- 喘鳴が強くなった、喘鳴が急に消えた
- 会話できない
- 立ち上がれない、歩けない
- 意識がもうろうとしている、けいれん

救急受診

- 元気がない、ぐったりして反応が弱い
- 機嫌が悪く、抱っこされることを嫌がる
- 泣き声が弱い、うなるような呼吸をしている
- 呼吸がいつもより早い、息をするのが苦しそう
- 手足や唇の色が悪い、蒼白、チアノーゼ
- 水分摂取不良、目が落ちくぼんでいる

小児科救急受診

※上記は脳症や肺炎の症状も含まれています。

この内容は2009年9月17日現在の情報に基づいています。 3

[新型インフルエンザ対策(A/H1N1)ぜんそくなどの呼吸器疾患のある人へ(平成21年度厚生労働科学研究費補助金(特別研究事業)成果物)。 <http://www.pref.kumamoto.jp/uploaded/attachment/25098.pdf> より]

うことが本当に浸透しているのか、疑わしいと感じることがあります。例えば、スーパーや大きな建物の入り口など、いたるところに手指の消毒薬が置かれています。しかし、

これはすっかり形骸化していて、これらが実際に使用されている様子を見たことがありません。今でも日常的に消毒薬が置かれている様子を見かけますが、日々見ている中